

令和4年度

奈良県立病院機構奈良看護大学校

推薦入学試験 問題

国語総合

注意事項

- 1 試験監督の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 2 試験問題は、問題1から問題18までです。試験時間は45分です。
- 3 問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄には正確にマークしてください。
- 4 解答は、①～⑤の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
- 5 マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。
- 6 試験中に問題の落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
- 7 問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しは禁止します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--



(問題は次のページから始まる)

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の傍線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) ① 聴聞(ちようぶん)会で利害関係者に意見を求めた。

② 音楽室から美しい旋律(おんりつ)が聞こえてきた。

③ 彼が立派なのは、師の薫陶(くんとう)を受けたおかげだ。

④ 反対意見が多く、議会は紛糾(ふんとう)した。

⑤ 遺産相続を巡って醜(ひど)い争いが起きた。

(2) ① 感動的な映画を観て号泣(ごうるい)する。

② 度重なるトラブルで課長の信頼は失墜(しつらく)した。

③ 彼にとってこの試合が初陣(はつじん)となる。

④ 胞子(ほうし)が発芽し成長する。

⑤ 台風により甚(おびた)ましい被害を受けた。

問題2 次の傍線部の漢字が正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) ① その噂はクラス中に伝波した。

② 所得税には墨進課税制度が採用されている。

③ 彼女は時勢を達観しているように見える。

④ 我が子の無事を知り、安戸のため息をつく。

⑤ 彼の背中には悲愛が漂っていた。

(2) ① 些細なことから確執が生まれる。

② 弟はいつも愛味な返事をする。

③ 独創的な企画を考安する。

④ 人前になると緊張で異縮してしまう。

⑤ 政治家の演説が野次に防害された。

(3)

- ① 仕事終わりに意<sub>レ</sub>労<sub>レ</sub>会を開く。
- ② あの人はすぐに虚<sub>レ</sub>栄<sub>レ</sub>を張る。
- ③ 警察は国家の治安を維<sub>レ</sub>自<sub>レ</sub>している。
- ④ 国語の先生は語<sub>レ</sub>意<sub>レ</sub>が非常に豊<sub>レ</sub>富である。
- ⑤ 問題解決のために思<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>をめぐらせる。

問題3

(1)

彼の表情にはアイ愁<sub>レ</sub>が漂<sub>レ</sub>っていた。

- ① あの二人は非常にアイ性が良い。
- ② 先生に向かつて元<sub>レ</sub>気よくアイ拶<sub>レ</sub>する。
- ③ 作文を書くときはアイ味<sub>レ</sub>な表現を避<sub>レ</sub>けるべきだ。
- ④ 親友に情<sub>レ</sub>アイのこもった手紙を送る。
- ⑤ 子は母にアイ願<sub>レ</sub>するようなまなざしを向けた。

(2)

看護師がけが人を介<sub>レ</sub>ホウ<sub>レ</sub>する。

- ① 彼はホウ<sub>レ</sub>建的な考<sub>レ</sub>えの持<sub>レ</sub>ち主だ。
- ② 星座が見えるホウ<sub>レ</sub>角を調<sub>レ</sub>べる。
- ③ 今年のホウ<sub>レ</sub>負を發<sub>レ</sub>表する。
- ④ 彼女はホウ<sub>レ</sub>容<sub>レ</sub>力のある人<sub>レ</sub>物だ。
- ⑤ 榮<sub>レ</sub>養のホウ<sub>レ</sub>富な食<sub>レ</sub>事を心<sub>レ</sub>がける。

(3)

組織の不<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ョウ<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>を暴<sub>レ</sub>く。

- ① 湖<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ョウ<sub>レ</sub>に生<sub>レ</sub>息する生<sub>レ</sub>物について調<sub>レ</sub>べる。
- ② 文明の發<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ョウ<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>を訪<sub>レ</sub>れる。
- ③ 契約の交<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ョウ<sub>レ</sub>が難<sub>レ</sub>航する。
- ④ この歌の作<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>は未<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ョウ<sub>レ</sub>である。
- ⑤ 濃<sub>レ</sub>塩<sub>レ</sub>酸と濃<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ョウ<sub>レ</sub>酸を混<sub>レ</sub>ぜる。

問題4 次の慣用語、四字熟語または故事成語の意味として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 花を持たせる。

- ① 相手を立てて、手柄や栄誉を譲ること。
- ② 互いに、激しく争うこと。
- ③ 美しいものや立派なものの上に、さらによいことを加えること。
- ④ 勝利や成功まで、もう一步の状態にすること。
- ⑤ 苦境にある敵を助けること。

(2) 隅に置けない。

- ① いい気になってずうずうしく構えること。
- ② 思いのほかに技量・才能があつてあなどり難いこと。
- ③ 緊張したり遠慮したりする必要がないこと。
- ④ 非常に嫌われることのたとえ。
- ⑤ 抜け目なく、素早く人を出し抜くこと。

(3) 合従連衡

- ① 一つのことばかりに気を取られて、我を忘れること。
- ② その時々 of 利害に応じて、結びついたり離れたりすること。
- ③ 新人で意気込みがあり、将来が有望な優れた人。
- ④ 見通しが明るく、希望に満ちていること。
- ⑤ 表面的にはこびへつらうように見せて、内心では反抗していること。

(4) 唯唯諾諾

- ① 気持ちが高まり、自信たつぷりに、誇らしげにふるまうさま。
- ② 自分に都合がいいように考えたり、物事を進めたりすること。
- ③ 自分が世界一すぐれているとうぬぼれること。
- ④ 物事のよしあしにかかわらず、人のことばに「はいはい」となんでも従ってしまうこと。
- ⑤ 周囲や相手を顧みることなく、感情のなすまま、思うままに行動すること。

問題5 次の意味に該当する慣用句または四字熟語として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 人の欠点を探しては、ことさらにそれを非難すること。

- ① 虎の尾を踏む。
- ② 目くじらを立てる。
- ③ 凶に乗る。
- ④ 目を掛ける。
- ⑤ 鳥の行水。

(2) どんなに困ろうとも、断じて不正はおこなわないということ。

- ① 苦しい時の神頼み。
- ② 嘘つきは泥棒の始まり。
- ③ 良薬は口に苦し。
- ④ 盗人にも三分の理。
- ⑤ 渴しても盗泉の水を飲まず。

(3) 計略や秘術の限りをつくして戦うさま。

- ① 変幻自在
- ② 面従腹背
- ③ 虚虚实実
- ④ 百戦錬磨
- ⑤ 羊頭狗肉

問題6 「バロメーター」の意味として正しいものを一つ選択せよ。

- ① 計画、企画、またその構成。
- ② 自主的に公共福祉などの社会事業に参加し、営利を目的としない活動に携わる人。
- ③ 高齢者や障害者の日常生活に妨げとなる障害を取り除くこと。
- ④ 物事の状態・程度などを推測する基準となるもの。
- ⑤ 現実に想定される場面のモデルをつくり出し、そのモデルによって種々の状況に応じた実験・分析を行うこと。

問題7 「その分野での権威者」を意味する語句として正しいものを一つ選択せよ。

- ① オーンリティー
- ② マネージャー
- ③ オブザーバー
- ④ ナビゲーター
- ⑤ コーディネーター

問題8 「厳粛」の同意語として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 質素
- ② 簡潔
- ③ 頑丈
- ④ 嚴重
- ⑤ 莊嚴



問題9 「創造」の反意語として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 発明
- ② 埋没
- ③ 崩壊
- ④ 廃棄
- ⑤ 模倣

問題10 傍線部の言葉の使い方が正しいものを一つ選択せよ。

- ① 最弱チームの汚名を注ぐために、猛練習に励む。
- ② 試合には負けたが、最後に得点を入れて一矢を返した。
- ③ 彼はおざなりな言い訳をしている。
- ④ 彼の口先三寸に言いくるめられた。
- ⑤ 彼は金に任せて高価な絵画を買いあさっている。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

全国、どの城にも、かならず評定の間というものはある。けれどもその評定の間から真の大策らしい大策が生れた例は甚だ少ないようだ。多くは形式にながれ、多くは理論にあそび、さもなければ(ア)心にもない議決におよそ雷同して、まずこの辺という頃合いを取って散会を告げる。

三人寄れば文殊の智というが、それは少なくとも一と一とが寄った場合のことで、零と零との会合は百人集まっても零に過ぎない。時代の行くての見えない眼ばかりがたとえ千人寄ってみたところで次の時代を見とおすことは出来ないが、評議となって列座すれば、誰ひとりとして、(それがしの目は節穴である)と、いう顔はしていない。

(イ)信念もなければ格別の達見も持つてはいないので、ただ自己をつくろうに詭弁と口舌の才を以てすることになる。従って、評議は物々しくばかりなつて、徒らに纏れ、徒らに横道に入り、またいたずらに末梢的にのみ走つて、結局、何回評議をかさねても、衆から一の真も生れず、そしていつまでも埒はあかないという所に陥ちてしまうのだった。A

「もう止めい。前夜からの評議というに、そちたちの旨を一わたり訊いてみれば、つづまるところ昨夜の初めのことばから一步も進んではおらない。……それよりはもう一度、この席へ官兵衛を招いて、(ウ)篤と彼の意見を質してみてはどうか。かりそめにもわが御着城の興亡にかかわる大事ぞ。たとえ官兵衛に快からぬ者どもも、日ごろの私心や不和などは一切打ち捨てて談合もし結束もしてくれねば困る」B

城主の小寺政職は、並居る一同の上から、ついに長嘆ともいえる語氣を以て、こう一先ずいいわたしたところであった。

それで一応は、(エ)日見和見の消極論も末梢的意見も、我意と我意の角突きあいても、鳴りをひそめたかに見えたが、また突如として、

「いや、その官兵衛殿ならば、今も今とて、どこへ参ったか、姿を探しにやっているとござる。ほかならぬご評議の席を、ご家老たるものが、ひそかに座を外してしまうなどは、実に言語道断。あの仁には、お家の浮沈を憂うるとか、殿の将来を案じるとか、そんな忠義のかけらも心にはないとみえる。ただ大法螺を吹くだけが能事のおひとらしいて」

重役のひとりたる陶義近が罵ると、その列の上座にいた老臣の蔵光正利、村井河内、益田孫右衛門なども口をそろえていい出した。C

「元来、口さき巧者だが、実のうすいさむらいじゃ。不作法もしかたがない」

「日ごろの不作法はゆるされるが、いったいこのご評議を何だと心得ているのだろうか」

「さればよ、官兵衛どのに、その忠義などを、求めるのが無理であろうよ。われわれ譜代の臣とはちがい、つい父の代からご当家に縁故をむすんだご被官に過ぎぬ」

「そういわれれば、元々、目薬屋の倅どの。(オ)ついわれらどもが、ご家老として、重んじるのがかえつて、ご本人には、辛いのかも知れませんな」D

で、耐えかねたか、その辺の席から一名の若い声が、

「宿老方のおことばを遮って恐れ入りますが、殿の仰せでもあります。ともかく官兵衛どのが見えるのを待って、もう一応、あのお方のご意見をよく問い質し、そのうえで如何いかようとも、是非を仰せあるもよし、反駁はんぱくなさるのも結構だと思いますが、ここは私ならぬ場所です、余りな陰口などはお慎みあるべきではございますまいか」

と、自分の身分に顧慮しながらも勇気をふるって窘たじなめた者がある。

城主の小寺政職は、(そうだ、よくいうてくれた)と感謝しないばかりな眼をして末席の方を見ていた。(カ)彼はそれほど自分を主君として重く臨めない人だった。決して暗君ではないし、地方の豪族の主人として教養もあるほうだったが、この世代に一族郎党を統率してゆくには、多分に欠けているものがあつた。大きく今の時流とその作用する分解や再建を觀てゆく活眼であつた。またその動揺のなかに処して迷わない信念とであつた。彼にはそれが無い。

もつとも、この播州ばんしゅう(注)にいて、僻地へきちの数郡を領すに過ぎない地方の一城主に、そんな達見を望むのは無理だともいえるのである。いま、天正三年という今日のごきは、余りにも烈しく、また余りにも大き過ぎた。E

(注) 播州—兵庫県の南西部の播磨の国

(吉川英治「黒田如水」による)

問題 11 次の文は本文の一部である。最も適当な挿入場所はどこか。文中のA～Eのうちから一つ選択せよ。

主人をおいて、聞えよがしの私語である。多少、官兵衛に好意をもち、また彼の説を支持している末席の若い武士たちには不愉快なことだつた。

- ① A  
② B  
③ C  
④ D  
⑤ E

問題 12 傍線部 (ア) 「心にもない議決におよそ雷同して」とあるが、それは評定出席者のどのような考えを表しているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 退屈な評定を少しでも早く終わらせたいという考え。
- ② 自分が意見を述べたところで、結果が変わるわけではないという考え。
- ③ 自分に特に強い信念もないため、大勢の意見に迎合した方が無難だという考え。
- ④ 反対意見を述べれば、謀反の企てがあるのではないかと疑われる恐れがあるという考え。
- ⑤ 頼りない城主のために知恵を出すのはもったいないという考え。

問題 13 空所 (イ) に入る最も適当な語句を一つ選択せよ。

- ① そのくせ
- ② それゆえ
- ③ なぜならば
- ④ たとえば
- ⑤ そのうえ

問題 14 傍線部 (ウ) 「篤と彼の意見を質してみてはどうか」とあるが、小寺政職は官兵衛にどのような意見を期待しているのか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 評定において、大策を取りまとめるには、どのような方策が必要になるか。
- ② 日ごろの私心や不和などを一切打ち捨てて、家臣が協力し合うにはどうしたらよいか。
- ③ 中国地方攻略を狙っている織田信長に味方すべきか、あるいは独立を守り通すべきか。
- ④ 天下がどのように動き、その中で自分たちがどのように身を処すべきか。
- ⑤ 御着城が敵に包囲された状況を打開し、城の存続を図るにはどうしたらよいか。

問題 15 傍線部（エ）「日和見的な消極論」は本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 全体の状況を大きくつかんで見た上での安全策。
- ② 損得ばかりを気にする勘定高い考え。
- ③ 筋道立てて考えずに物事を論ずる役に立たない意見。
- ④ 物事のなりゆきを見て有利な方につこうとする後ろ向きの方。
- ⑤ どのような意見にも反対することにより、目立とうとする姿勢。

問題 16 傍線部（オ）「ついわれらどもが、ご家老として、重んじるのがかえって、ご本人には、辛いのかも知れませんが」とあるが、発言者の本当の気持ちとして最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 官兵衛に能力以上の重責を背負わせてしまい、申し訳ないという気持ち。
- ② 官兵衛本人のためと称して、家老の職を解任してやりたいという嫌がらせの気持ち。
- ③ 官兵衛の考えていることはよくわからず、途方に暮れる気持ち。
- ④ 自分たちがどのように接すれば官兵衛が活躍できるかという献身の気持ち。
- ⑤ 今まで官兵衛が家老として頑張ってきたことに対するねぎらいの気持ち。

問題 17 傍線部（カ）「彼はそれほど自分を主君として重く臨めない」とあるが、それはどういうことか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 彼には家臣を統率する自信がなく、自分の言葉が家臣の反感を買うのではないかと恐れている。
- ② 彼は乱世のなかで、家臣といえども明日は敵味方に分かれるかもしれないと思っている。
- ③ 彼は官兵衛がいなくて重要な決断ができず、周囲からもそう思われている。
- ④ 彼には城主としての重い責任を負う覚悟がないため、周囲にも強く出ることができない。
- ⑤ 彼は主君になりたくてなかったわけではないので、その地位を負担に思っている。

問題 18 a～dのうち、本文の内容と合致するものの組み合わせとして正しいものを一つ選択せよ。

- a 官兵衛は、皆から頼まれる形で意見を言う機会を得るため、わざと評定を欠席した。
- b 官兵衛は老臣から嫌われており、また、家中の若手武士からも反感を買っている。
- c 小寺政職は、この評定の件に関しては古参の重役たちより官兵衛に頼っている。
- d 御着城は弱小であるため、時流を見極める活眼と強い信念なくしては、戦乱の世の中で生き残れない。

- ① aとb
- ② aとc
- ③ bとc
- ④ bとd
- ⑤ cとd

